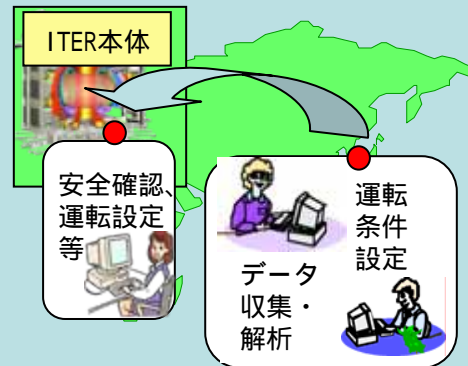


幅広いアプローチについて(イメージ)

平成17年8月9日
文部科学省
研究開発局

- ・人類のための核融合エネルギーを実現するために、ITERと並行して補完的に取り組むべき研究開発。
- ・日欧の協力により日本国内において実施し、研究活動への他極からの参加をオープンにする。
- ・日欧が460億円ずつ費用負担することにより、計920億円を拠出。

遠隔実験センター



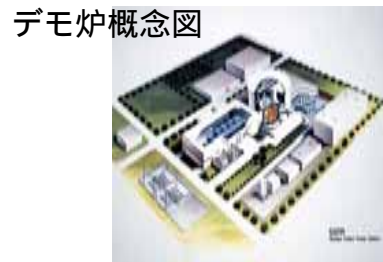
・世界全体でITER施設を有効利用するために、高速ネットワーク回線を利用して遠隔からの実験条件の設定・データ収集・解析等を行う

計算機シミュレーションセンター



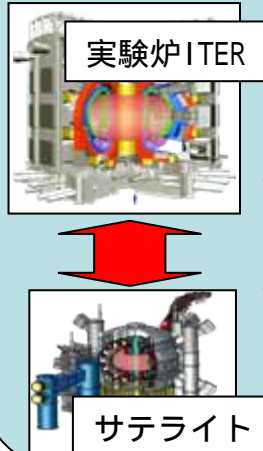
・燃焼プラズマの挙動のシミュレーションを行い、ITERのより効率的な実験条件の設定を可能とする。またデモ炉の設計にも資する。

デモ炉の国際設計活動センター



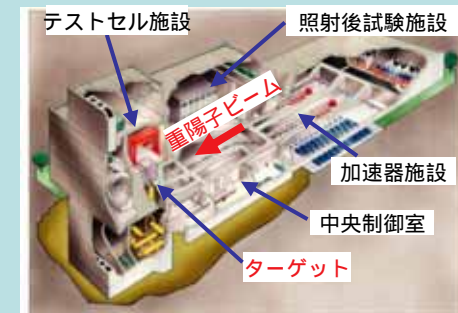
・ITERの次の段階のデモ炉について、各国の研究者から成る国際チームを設置。
・炉システム・プラント等の概念設計・評価。

サテライトトカマク装置



・補完的かつ先進的な研究課題を実施することにより、ITER計画の効率的推進と核融合エネルギーの早期実現に資する。

国際核融合材料照射施設



・材料照射施設的设计活動を行う。
・次段階のデモ炉に必要な核融合材料の照射試験を行う。